

出張報告届

令和 4年 8 月 8 日

吹田市議会議長様

会派名 自由民主党絆の会

代表者氏名 泉井 智弘

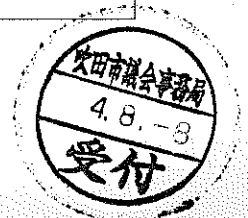
出張者氏名 白石 透

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	TKP池袋カンファレンスセンター
期間	令和4年7月28日 から 令和4年7月28日まで1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	議員・職員のための よくわかる地方財政と自治体予算 ～進化する自治体をめざして攻めの決算審査&守りの 予算審議～



(株) 地方議会総合研究所 報告書

よくわかる地方財政と自治体予算

～進化する自治体をめざして

攻めの決算審査&守りの予算審議～

日程：令和 4年7月28日（金）

場所：TKP 池袋カンファレンスセンター

講師：文教大学客員教授・前足立区教育長 定野 司

講師の定野 司氏のプロフィールは1979年、足立区に入区後、2002年「包括予算制度」が経済財政諮問会議の視察を受け注目を浴び、以来、予算制度改革やコスト分析による行政改革を実践。08年から自治体の事業仕分けに参加。12年、自治体業務のアウトソーシングを検討する「日本公共サービス研究会」の設立に携わるなど、持続可能な自治体運営に取り組む。15年4月から現職。と、紹介されている。足立区役所時代には、財政課長、環境部長、総務部長、教育長などを歴任されたということで、36年間に4人の首長に仕え、一時期、首長と議会との間で翻弄されたとのことでした。

今回のセミナーでは、36年間、役所にいたということで、予算、決

算について、これらを挙げてくるその過程、本質を教わったように感じた。

このセミナーで特に印象深いのは、自治体職員と自治体管理職との関係について色々と休み時間中等の雑談も含め、興味深い話を聞いた。自治体職員には地公法第35条により職務専任義務があり、勤務時間の全てをその職責遂行のために使い、仕事以外に使ってはいけないわけで、たとえ仕事が早く終わって空いた時間ができたとしても、いつもは二重チェックで済ますところを三重、四重にして万全を期すわけで、これを無駄だという人は一人もいないだろう。

また予算についても「お金は入っただけ出る。」役人はその年の収入のすべてを予算化し、余すことなく使い切ろうとする。

自治体予算には会計年度独立の原則（自治法第208条第2項）があり、原則としてその年度の歳出はその年度の歳入で賄わなくてはならない。

例えば小学校の給食会計を想像してみると、今年度集めた給食費が少し残ったとして、これを次年度の給食に充てたら、次の新入生は喜ぶが、卒業生からは不満が出るでしょう。給食費が足りなくなってしまうたら、次年度の給食費を前借りするなんて、とても許されそう

にないでしょう。

ということで多くの自治体職員は「使い切り予算」をそんなに悪いことだとは思っていなくて、むしろそれは、当然だと考えている。なので、翌年度以降に繰り越した予算や、基金は別だが、結局、時間や予算の無駄を省き、役所の生産性を向上させるには、役人の数と予算を削減するしかないという考え方になると結論付けられ、講師曰く、「残業は残業手当がある限りありません。」と言ってました。

予算執行の件で例えば、予算が残っているからと必要ないものに予算を使えば無駄遣いであるが、あっちもこっちもやらなくてはならない道路の補修工事を担当する部署は年度末までに少しでも予算を使い、工事を執行して道路交通に支障がでないように乗り切ろうと考えます。

私も民間企業に長らく勤務しており、地方公務員の予算・決算に関する考え方の違いは認識していたものの、改めて長く自治体職員の管理職を務められた講師からセミナーを受けたことにより再確認させてもらったと同時に改めて予算・決算、職員の配置について、メリハリのある業務遂行が重要であると再認識させてもらった。

今後の私の立場から、予算・決算に関して、古くからの役所の体質を柔軟に、また臨機応変に市民のための税金の使われ方を少しでも多くの市民理解を得られるように、しっかりと説明、責任を果たしていくことの重要性を再認識させてもらった。

今回のセミナーもそうであったようにオンラインではなく、対面でのセミナーがとても有効だと感じる。今後もしできる限り従来型のセミナー参加を考えたいと感じた。